

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 3 年 8 月 5 日 (2021.8.5)

【公表番号】特表 2020-524203 (P2020-524203A)

【公表日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【年通号数】公開・登録公報 2020-032

【出願番号】特願 2019-569949 (P2019-569949)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/28 (2006.01)

C 0 9 K 3/10 (2006.01)

C 0 9 J 175/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 18/28 0 7 5

C 0 9 K 3/10 D

C 0 9 J 175/04

C 0 9 J 11/06

C 0 9 D 175/04

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 6 月 21 日 (2021.6.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

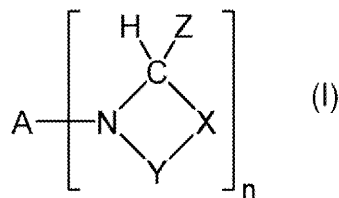
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I)

【化 1】



(式中、

n は、1、2 又は 3 であり、

Z は、アルキル又はアルコキシ基で置換され、且つ、合計で 12 ～ 26 個の炭素原子を有するアリール残基であり、

A は、15 ～ 10000 g / mol の範囲内の分子量を有する n 価有機残基であり、

X は、O 若しくは S 又は NR^0 (ここで、 R^0 は 1 ～ 18 個の炭素原子を有する一価有機残基である) であり、及び

Y は、置換されていてもよい 1, 2 - エチレン又は 1, 3 - プロピレン残基であり、

ここで、A 及び Y は、n = 1 である場合、4 ～ 10 個の炭素原子を有する三価残基に結合していてもよい)

の化合物。

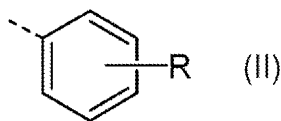
【請求項 2】

A が、酸素又は窒素又はケイ素原子を有していてもよく、及び、 $15 \sim 6,000 \text{ g/mol}$ の範囲内の分子量を有していてもよい、 n 価の脂肪族、脂環式又はアリール脂肪族ヒドロカルビル残基であることを特徴とする、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

Z が、式 (II)

【化 2】



(式中、R が、 $6 \sim 20$ 個の炭素原子を有するアルキル又はアルコキシ残基である) の残基であることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の化合物。

【請求項 4】

R が分岐型残基であることを特徴とする、請求項 3 に記載の化合物。

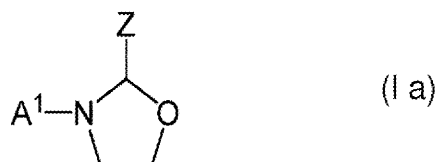
【請求項 5】

R が、主に分岐の 4 - デシル、4 - ウンデシル、4 - ドデシル、4 - トリデシル及び 4 - テトラデシル残基から選択される、請求項 3 に記載の化合物の混合物。

【請求項 6】

n が 1 であり、Y が 1, 2 - エチレンであり、X が O であり、及び、A が A^1 (ここで、 A^1 は、水酸基を有し、及び、 $1 \sim 8$ 個の炭素原子を有するアルキル、シクロアルキル又はアラルキル残基である) であり、それ故、式 (Ia)

【化 3】

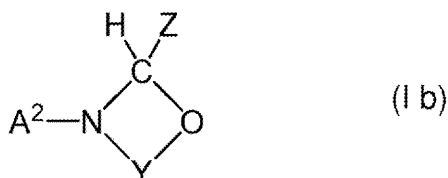


を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 7】

n が 1 であり、X が O であり、及び、A が A^2 (ここで、 A^2 は、シラン基を有し、及び、 $1 \sim 6$ 個の炭素原子を有するアルキル残基である) であり、それ故、式 (Ib)

【化 4】

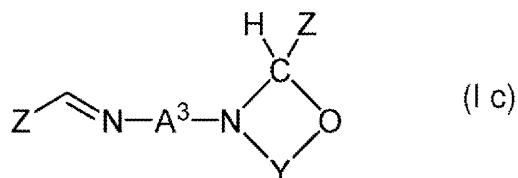


を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 8】

n が 1 であり、X が O であり、及び、A が $Z - CH = N - A^3 - - -$ (ここで、 A^3 は、 $1 \sim 8$ 個の炭素原子を有するアルキレン、シクロアルキレン又はアリールアルキレン残基である) であり、それ故、式 (Ic)

【化 5】

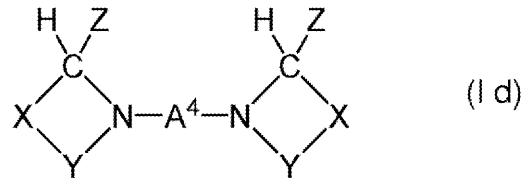


を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 9】

n が 2 であり、及び、 A が A^4 （ここで、 A^4 は、1 つ以上のエーテル、エステル、カーボネート又はウレタン基を有していてもよく、及び、2 ～ 50 個の炭素原子を有するアルキレン又はシクロアルキレン又はアリールアルキレン残基である）であり、それ故、式 (I d)

【化 6】

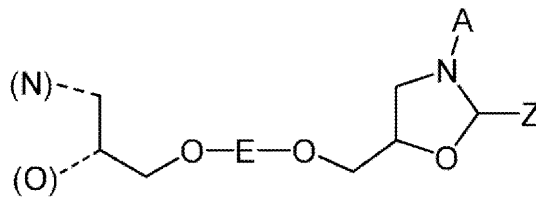


を有することを特徴とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 10】

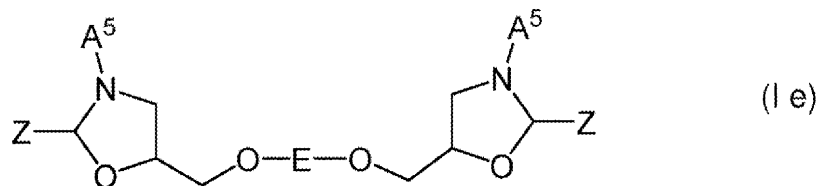
n が 1 であり、 X が O であり、 A が A^5 であり、及び、 Y が、式

【化 7】



の残基であり、ここで、 A^5 は、1 つ以上のエーテル基を有していてもよく、及び、1 ～ 35 個の炭素原子を有するアルキル、シクロアルキル又はアラルキル残基であってもよく、並びに、 E は、1 つ以上のエーテル、エステル又はグリシドキシ基を有していてもよく、及び、6 ～ 20 個の炭素原子を有する二価ヒドロカルビル残基であってもよく、それ故、式 (I e)

【化 8】



を有することを特徴とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項 11】

イソシアネート基を含有する組成物のための潜在性硬化剤としての、請求項 1 ～ 10 のいずれか一項に記載の化合物の少なくとも 1 種の使用。

【請求項 12】

- 請求項 1 ～ 10 のいずれか一項に記載の化合物の少なくとも 1 種、並びに
- 少なくとも 1 つのポリイソシアネート及び / 又はイソシアネート基を含有する少なくとも 1 種のポリウレタンポリマー
を含む組成物。

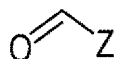
【請求項 13】

接着剤又はシーラント又はコーティングであることを特徴とする、請求項 12 に記載の組成物。

【請求項 14】

窒素原子及び酸素原子が、2 又は 3 個の炭素原子によって互いに離間されているアミノアルコールのためのブロッキング剤としての、式 (I V)

【化 9】



(IV)

（式中、Zは、アルキル又はアルコキシ基で置換され、且つ、合計で12～26個の炭素原子を有するアリール残基である）
の少なくとも1種のアルデヒドの使用。

【請求項15】

用いられる前記式（IV）のアルデヒドが、4-デシルベンズアルデヒド、4-ウンデシルベンズアルデヒド、4-ドデシルベンズアルデヒド、4-トリデシルベンズアルデヒド及び4-テトラデシルベンズアルデヒドであって、そのアルキル残基が主に分岐型であるものを含む混合物である、ことを特徴とする、請求項14に記載の使用。